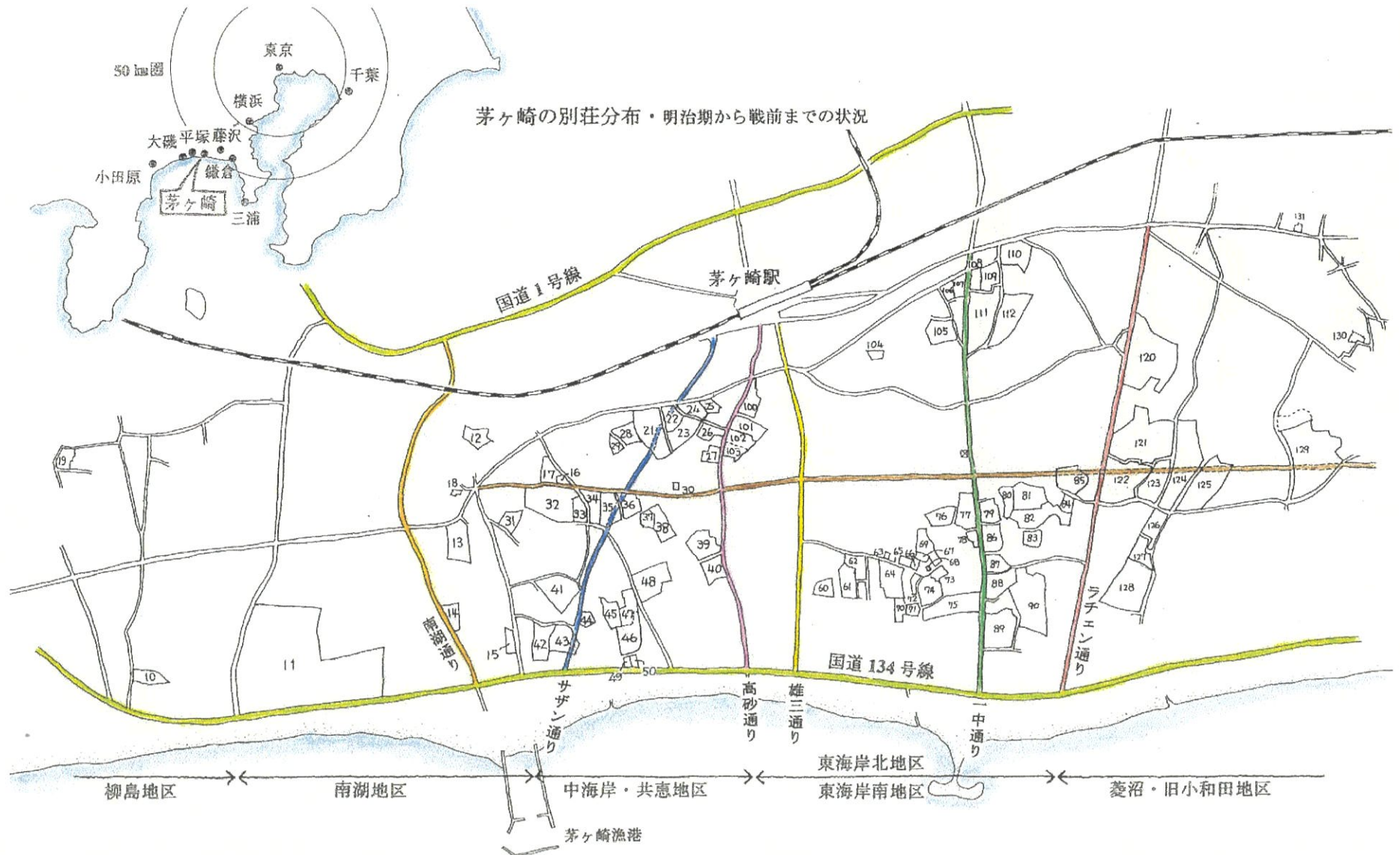


茅ヶ崎の別荘

成立過程と変遷

文教大学 川崎衿子

茅ヶ崎の別荘分布（明治から戦前まで）



別荘地成立の時代区分

第1期	第2期	第3期
明治維新から明治20年頃まで	明治20年頃から大正初めまで	第1次世界大戦後から戦前まで
江戸下屋敷スタイルの継承期	鉄道網整備による遠隔発展期	別荘地の大量分譲・供給開発期
東京：隅田川、多摩川沿い 横浜：野毛山周辺 居留地外国人による本牧、根岸周辺 下屋敷型	日光、伊香保、箱根、江ノ島など既存観光地周辺 海浜保養、海水浴が中心。 海浜型	箱根、軽井沢、野尻湖、妙高富士見、那須などの高原の避暑地が中心。 高原型
本宅との距離は人力車、馬車が及ぶ範囲に限られる。	外国人の避暑願望、日本人のステイタスシンボル欲の表面化、休暇制度の定着などを背景に、鉄道網に沿ってより遠隔地に別荘地が成立する。	避暑思想の浸透と大衆化の兆しが見られ、好景気によって生まれた富裕層が別荘を所有するようになる。第一次は軽井沢、その俗化を嫌った層が新たな高原へと移動する。

関東大震災による別荘の被害

三四 関東大震災による別荘の被害 大正十五年六月

皇族華族其他名士ノ住居及別荘焼失倒潰表

署別	所在地	名称(又ハ別荘邸宅名)	焼失又ハ倒潰ノ別
茅ヶ崎海岸	公爵	徳大寺公弘別荘	全潰
男爵	前島弥別荘	同	同
同	石本新六別荘	半潰	潰
同	箕作神一別荘	全潰	潰
同	安東貞美別荘	同	同
同	木越安綱別荘	同	同
同	原口兼綱別荘	同	同
伯爵	松平基則別荘	半潰	潰
子爵	佐伯義通別荘	全潰	潰
同	土井利同別荘	同	同
海軍中将	南部辰丙別荘	同	同
同	柴野義広別荘	同	同
海軍少将	増田高頼別荘	同	同
工学博士	長野宇平治別荘	同	同
同	小田川金三別荘	同	同
法学博士	牧野英一別荘	同	同
元宮内官	山田薫別荘	同	同
元判事	柳田直平別荘	同	同
知名士	石田太郎別荘	同	同
法学博士	稲垣米吉別荘	半潰	潰
工学博士	山本忠與別荘	全潰	潰
伯爵	土屋正直別荘	同	同
医学士	小泉行徳別荘	同	同
宮内省林野局長	大場信国別荘	同	同

別荘地変貌の時代区分

- 1 1898 (明治31) 6月 茅ヶ崎駅開設
 1899 (明治32) 南湖院開設
 大規模別荘の出現
- 2 1923 (大正12) 9月 関東大震災
 大規模別荘の倒壊と中小規模別荘の出現
- 3 1945 (昭和20) 8月 第二次大戦終結
 別荘の本宅化と宅地化・細分化
 相続問題の発生
- 4 1980 (昭和55) 年代以降
 マンション建設・開発の広域化

茅ヶ崎市の長寿命住宅調査

